

国語 第5学年 方言と共通語 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：共通語と方言の違いを知り、相手や場面に合わせて伝え方を考える。方言を誤りとして直す授業にしない。A(1)オの学習として、説明したい方言、確かめた地域と意味、初めて聞く相手への言い換えや補足。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、相手の立場や意図を確かめながら話し合い、場面に合う伝え方について考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。A(1)オの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：説明したい方言、確かめた地域と意味、初めて聞く相手への言い換えや補足を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、A(1)オに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：共通語だけが正しく方言は直すべき言葉だと考える、家族の話し方をからかう。これに対して、教師が公的な方言辞典等で意味を確かめた語を提示する。同じ語でも地域や世代で用法が違う場合は注記し、本人の家庭や出身地の発表を必須にしない。〔知識及び技能〕(3)ウとA(1)オを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「初めてその言葉を聞く人に伝えるなら、どんな説明を加えますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、A(1)オに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：説明したい方言、確かめた地域と意味、初めて聞く相手への言い換えや補足は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をA(1)オの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。A(1)オで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し：共通語だけが正しく方言は直すべき言葉だと考える、家族の話し方をからかう。教師が公的な方言辞典等で意味を確かめた語を提示する。同じ語でも地域や世代で用法が違う場合は注記し、本人の家庭や出身地の発表を必須にしない。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「初めてその言葉を聞く人に伝えるなら、どんな説明を加えますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。A(1)オに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

